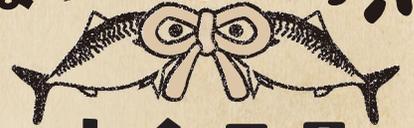


このまちから魚を運び続けた たくさんの人たちがいる

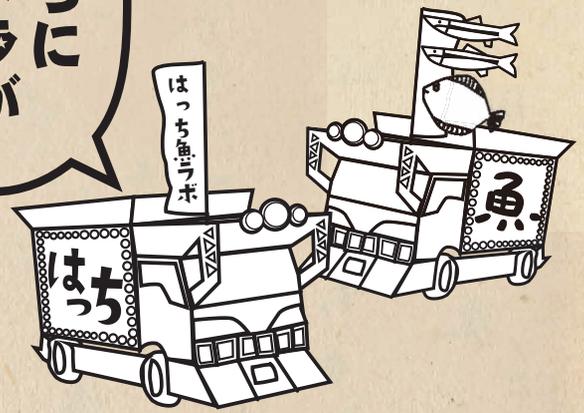
ギョ! はっち魚ラボ



新聞

hacchi

はっちに
デコトラが
やってきた!



八戸に水揚げされた魚は、冷凍技術や冷蔵・冷凍車、高速道路がなかった時代から、長距離トラックで築地などに運ばれていました。イカやサンマを並べた木箱に氷をぎっしりと詰め、魚の鮮度が落ちないうちに少しでも早く市場に届けようと、ドライバーたちは国道をただひたすら走りまわりました。

長時間を過ごすトラックをゴージャスに飾り、居心地の良い空間を作り、愛する家族の名前をトラックにつけました。トラックはドライバーの分身。なるべく早くたくさんの魚を届けようと、長距離を走り続けるドライバーたちのアイデンティ

ティーこそ、デコレーショントラック(デコトラ)だったのです。

故郷八戸の誇りである祭りのイメージが装飾に反映されることもありました。ともすれば人を威嚇するような装飾に、八戸三社大祭の山車の迫力が重なるという人もいます。このようなデコトラは、やがて多くのドライバーのあこがれとなり、映画「トラック野郎シリーズのヒットなどへとつながったのです。

その映画のモデルとなったといわれる、元祖トラック野郎の夏坂照夫さんは、階上町で運送会社を経営しています。夏坂さんが飾り付けたトラックの

こよさは、多くの男たちを魅了しました。ひとつひとつの部品から車体に入れる一本のラインまで、彼らは繊細なこだわりで工夫し、装飾をほどこしていったのです。八戸の魚市場でも、こだわりの装飾をほどこしたデコトラを見かけます。

そんなドライバーたちのデコトラが9月28日、はっちの番町スクエアに並びました。運ぶものは魚だけではありませんが、それぞれの稼業を背負って走る男たちの思いがトラックに表現されています。夜の闇を照らすデコトラのイルミネーション。「運ぶ人」の孤独と誇りが、その光の中に浮かび上がります。

- ①トラックの名前の由来
- ②ドライバー名
- ③こだわり
- ④何を運んでいるか



第五一誠丸

- ①トラックの恩師である人のトラックから引き継ぎました。
- ②峯山伸也さん
- ③夏坂社長のトラックに以前描かれていた絵を、夏坂社長より許可を頂き再現したところと風防。
- ④トラック部品、氷、一般貨物



悪女伝説II

- ①前オーナーからもらいました。
- ②上村明弘さん③全部
- ④いろいろ



六代目やまはち

- ①自分の家の屋号②八幡政寛さん③エサシカデザインのペイント、内装、箱→床上げ、床ざらし④自家野菜



千鶴観光

- ①愛妻の名前からです。②早野祐樹さん③夏坂社長のトラックのスタイルにあこがれて、自分なりに味付けをして飾っているところ
- ④建築資材



油屋祐ちゃん

- ①油を運んでいるから②坂本祐二さん③ウロコのバンパー、運転しやすいかざりエサシカデザインの看板文字・レトロ系飾り④灯油



みちのく十和田観光

- ①地元が十和田なのでPR②芋田孝政さん③塗り分けたキャビン塗装④車とかいろいろ



蜂蜜急行 麻神丸

- ①子どもの名前②藤村英樹さん③ウロコのバンパー、運転しやすい飾り④蜜蜂

釣りとの
魚食の
楽しさを語る
西本さん



今回のトークゲストは、釣り人・長崎泰一さんと、ウェブとFacebookで「釣り情報八戸」を主宰する西本匡さん。魚ラボ会当日の昼間、長崎さんが新井田川湊橋付近でハゼ釣りをしていると、対岸の男山酒造の前で同じような釣り方をしている人を発見、それが西本さんだったとか。会場にはさまざまな釣り竿が並べられ、「釣りの7モツ(道具)」は、竿、



釣りの奥深さを熱弁する長崎さん

八戸は魚に関してぜひいたくな場所です!

「八戸は魚に関してぜひいたくな場所。」とお二人。50センチを超えるカレイが釣れることで有名で、アブラメ(アイナメ)、ソイなど東京で出したら高級な魚が身近にあります。



「魚はどうやって釣るの?」と西本さんは小力鍋で煮て、ツナペースト状にしてパンに塗っておいしく食べます。

「釣り人は一番妄想の強い」と長崎さん。釣り人

第6回 魚ラボ会 予告!

田附勝 八戸の漁師たちに迫る

はっち魚ラボの一環として、写真家田附勝さんは、八戸沿岸で漁業を営む人々に密着し、撮影を続けてきました。北の海に向き合ってきた浜の人々の姿に、田附さんが何を見出したのかを伺います。



- 日時 11月15日(土) 18:30~20:00
- 会場 はっち5階共同スタジオ
- 出演 田附勝さん(写真家)

八戸の港湾の特徴は泥と砂が堆積した砂泥底で、東京湾と似ています。汚染が進んでいた東京湾はこの10年間で急速に回復。その一方で、八戸の

港湾はダムの影響で濁って汚れてきています。さらに水温とエサが変わって釣れる魚が激変しました。「一番の衝撃はアオリイカ。沖繩から山

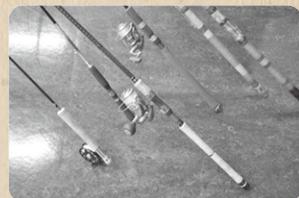


味わえる一夜となりました。

仕掛けの錘を落としてポンポンと底を叩く。そうすると砂場が岩場か分かるります。」

道で釣れる。もう一つは南方系の魚サワラが定置網に年々増えていて、皆さんも一度は考えてほしい。釣りは魚を釣って

食べるだけではない、ダイレクトに自然を感じられる趣味。」としめくくりには環境問題にも及んで、釣りの魅力を存分に



想像します。人種(笑)。釣り場に行ったらと、まずは魚が隠れているのが底だとして、底の形状を想像します。

